日本パブリックリレーションズ協会会員誌

PRSJ PUBLIC RELATIONS SOCIETY OF JAPAN NEWS

2016年8・9月合併号

NO. 277

TOPICS

「PRプランナー資格認定制度10周年に向けて」
(公社)日本パブリックリレーションズ協会　副理事長　上岡典彦
MESSAGE　P3

「広報PRアカデミー2016
「広報・PRブラッシュアップ講座」4講座を10月に開講」
ATTENTION　P4

「2016年度PRアワードグランプリ
審査体制を一新して9月1日からエントリー募集を開始！」
ATTENTION　P6

「PRSJホットライン(内部通報制度)開設について」
ATTENTION　P8

公益社団法人日本パブリックリレーションズ協会

〒106-0032 東京都港区六本木6丁目2番31号　六本木ヒルズノースタワー5F
電話(03)5413-6760　ファックス(03)5413-2147
URL　http://www.prsj.or.jp/

関西支部　〒530-0003 大阪市北区堂島2-1-27 桜橋千代田ビル3F
電話(06)6344-3002　ファックス(06)6344-3005

発行人:近見 竹彦

8･9月合併号　目次

9月～10月のスケジュール		1
MESSAGE(メッセージ)	「PRプランナー資格認定制度10周年に向けて」	3
ATTENTION((お知らせ)	「広報PRアカデミー2016「広報・PRブラッシュアップ講座」4講座を10月に開講」	4
〃	「2016年度「PRｱﾜｰﾄﾞｸﾞﾗﾝﾌﾟﾘ」審査体制を一新して9月1日からｴﾝﾄﾘｰ募集を開始！」	6
BULLETIN(活動報告)	「広報PRアカデミー　夏期の「PRプランナー試験対応講座」を終了」	8
〃	「広報PRアカデミー「緊急記者会見ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ」を7月7日に開講」	9
〃	「第18回PRプランナー資格検定試験　3次試験結果発表　合格者は86名」	10
〃	「第19回PRプランナー資格検定試験　1次試験を8月21日（日）実施」	12
〃	「異文化勉強会　在東京タイ王国大使館　訪問」（会員限定）	13
〃	「第37回「PRスキル研究会」開催報告」（会員限定）	13
REPORT(講演レポート)	「第175回定例研究会　スクープ街道を驀進する『週刊文春』の取材と編集」（会員限定）	14
VOICE of PR Planner	「志高き仲間とベクトルを同じくすることの素晴らしさ」	15
PR TREND(PRﾄﾚﾝﾄﾞ(関西)	「関西の風：インバウンドの需要創出」	17
協会掲載記事	「PRSJ　in　Media　8月」	19
掲示板	「『日本広報学会　第22回研究発表全国大会』開催のご案内」	20

9月～10月スケジュール

第 177 回定例研究会

日　時　：　9 月 28 日（水）　12:00～14:00
会　場　：　AP秋葉原
講　師　：　BuzzFeed Japan㈱　創刊編集長　古田大輔氏
テーマ　：　「“読者目線”に徹する『BuzzFeed Japan』の新展開
～目指すは「世の中へのポジティブなインパクト」～」

第 2 回PRプランナー朝活セミナー
＆交流会　（PRプランナー部会）

日　時　：　10 月 4 日（火）　8:00～9:30
会　場　：　ドコモラウンジ（有楽町）
講　師　：　㈱オールアバウト メディアビジネス事業部
コンテンツプロデュース部 ジェネラルマネジャー　大塚　晋氏
テーマ　：　「All About の編集と Web メディアが広報に求めること」

広報PRアカデミー2016
「広報・PRブラッシュアップ講座」

日　時　：　10 月 5 日（水）　12 日（水）、19 日（水）、26 日（水）
いずれも 13:30～17:30
会　場　：　富士ソフトアキバプラザ

第 16 回広報活動研究会（企業部会）

日　時　：　10 月 11 日（火）　15:00～
訪問先　：　旧赤坂プリンスホテル跡地「東京ガーデンテラス紀尾井町」見学会

第 178 回定例研究会

日　時　：　10 月 25 日（火）　12:00～14:00
会　場　：　AP東京丸の内
講　師　：　日経BP社　「日経ビジネス」編集長　飯田展久氏
テーマ　：　「『日経ビジネス』の編集とこれからのメディア展開
～三位一体のビジネスメディア戦略を探る～（仮）」

特別シンポジウム

日　時　：　10 月 27 日（木）　18:30～20:30
会　場　：　ベルサール神保町
講　師　：　日経BPヒット総合研究所長」執行役員　麓　幸子氏
㈱博報堂ケトル　代表取締役社長　嶋　浩一郎氏
MSD㈱　執行役員　広報部門統括　山下節子氏
㈱グローコム　代表取締役社長　岡本純子氏
テーマ　：　「多様性社会を担う広報パーソンの役割とキャリア像」

9月～10月の理事会・委員会・部会スケジュール

定例理事会	**（９月度）**	日　時	：	9月　13 日	（火）	12:00～14:00
	（10 月度）			10 月　11 日	（火）	12:00～14:00
		会　場	：	（一財）産業人材研修センター　霞会館　大会議室		
教育委員会	**（９月度）**	日　時	：	9月　14 日	（水）	12:00～14:00
	（10 月度）			未定		
		会　場	：	協会会議室		
資格委員会	**（９月度）**	日　時	：	9月　29 日	（木）	12:00～14:00
	（10 月度）			10 月　27 日	（木）	12:00～14:00
		会　場	：	協会会議室		
国際・交流委員会	**（９月度）**	日　時	：	9月　15 日	（木）	12:00～13:30
	（10 月度）			10 月　20 日	（木）	12:00～13:30
		会　場	：	協会会議室		
広報委員会	**（９月度）**	日　時	：	9月　5日	（月）	16:00～18:00
	（10 月度）			10 月　3日	（月）	16:00～18:00
		会　場	：	協会会議室		
顕彰委員会	**（９月度）**	日　時	：	9月　14 日	（水）	10:00～12:00
	（10 月度）			10 月　19 日	（水）	16:00～18:00
		会　場	：	協会会議室		
企業部会幹事会	**（９月度）**	日　時	：	9月　6日	（火）	17:00～18:00
	（10 月度）			10 月　4日	（火）	17:00～18:00
		会　場	：	協会会議室		
ＰＲ業部会幹事会	**（９月度）**	日　時	：	9月　20 日	（火）	16:00～18:00
	（10 月度）			10 月　18 日	（火）	16:00～18:00
		会　場	：	協会会議室		
ＰＲプランナー部会幹事会	**（９月度）**	日　時	：	9月　20 日	（火）	19:00～21:00
	（10 月度）			未定		
		会　場	：	㈱電通パブリックリレーションズ　会議室		

PRプランナー資格認定制度 10 周年に向けて

公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会
副理事長　上岡典彦

本年 6 月より資格委員会委員長、ならびに副理事長を拝命しました。
協会の諸先輩方のご指導を仰ぎ、ＰＲプランナー資格認定制度、ならびに協会の更なる発展のために取り組む所存です。

さて、ＰＲプランナー資格認定制度を担っている資格委員会のミッションは、試験の公正・公平・適切な運営とＰＲプランナー資格の価値を高めていくことにあります。試験運営に関しましては、試験専門委員会のご尽力のもと、今年はついにＰＲプランナーが 2,000 名を突破しました。まさに数は力で、2,000 名の仲間たちの意思・行動が 1 つに結集すれば、日本のＰＲ界に大きな影響を与える集団に進化できると思います。

しかし一方、意思・行動のベクトルを一つにすることについてはまだ途上と言えます。そのためにはミッションの 2 つ目である、ＰＲプランナー資格の価値を高めていくことが重要になります。私自身も 2007 年に資格を取得した一人です。「ＰＲＳＪ認定ＰＲプランナー」と書き加えた名刺を見て、メディアや他企業の広報の方々から「この資格は何ですか？」と尋ねられたり、「ＰＲプランナーなんですね！」と話題が拡がる一助になりました。

協会ではＰＲプランナー部会が主となり、ＰＲプランナー対象の催しを行っており、そこで仲間と集い互いに刺激し合うことは個々のＰＲパーソンにとって大きな励みになっていると思われます。
しかしながら、（誤解を怖れずに言うと）資格を取得した多くの人々は「資格を取得したことでＰＲパーソンとしてどう成長できるのか？」「この資格はビジネスキャリアに生かせるのか？」という悩みを抱いているのではないでしょうか。

資格委員会委員長として私のミッションの重点は、ＰＲプランナー部会と連携して、ＰＲプランナー資格の社会的注目度、そして評価・価値を高めることに置きたいと思います。私自身も講演や取材の機会などに積極的に発信してまいります。
現在考えていることは、ＰＲプランナー資格取を通じて仕事のキャリアアップを果たした方、ＰＲパーソンとしての成長を実感している方々に取材を行い、その成功体験をまとめ情報発信を行うことです。
言うまでもなくＰＲにとって大切なことは、社会・時代の視点からモノゴトを捉えることです。その視点を有することは社会人として、ビジネスパーソンとしていかに有益かということを企業や大学をはじめとした団体の人事担当者、管理職に知らしめたいと考えます。

来年はＰＲプランナー資格認定制度制度 10 周年の節目を迎えます。
委員長としてのミッションに全力で取り組んで参りますので、ご指導とご協力を宜しくお願い申し上げます。

ATTENTION

広報PRアカデミー2016

「広報・PRブラッシュアップ講座」4 講座を 10 月に開講

ベーシックな実務スキルを講義と演習で確実に習得

教　育　委　員　会

日本ＰＲ協会では、来る 10 月 5 日より、広報・ＰＲ業務の新任者向け研修として、「広報ＰＲアカデミー2016　広報・ＰＲブラッシュアップ講座」4 講座を開講いたします。

実務の現場において、広報・ＰＲパーソンはメディア対応をはじめ、広報計画の立案、企画書や発表資料の作成、関係者に対する提案や説明など様々な業務に追われます。これらの迅速かつ的確な遂行のために、広報・ＰＲ担当者はそれぞれの業務遂行に必要とされるベーシックなスキルを、確実に身に着けておくことが必要です。

「広報・ＰＲブラッシュアップ講座」では、広報・ＰＲパーソンにとってマスターが必須の「メディアリレーションズ」、「ＰＲプランニング」、「ドキュメンテーション」、「プレゼンテーション」の４つの基本的スキルを、それぞれに精通したベテラン講師の指導による講義と演習を通じて習得します。

ＰＲ会社、企業・団体の広報・ＰＲ部門の皆様には、メンバーの基礎的スキルの強化に本講座をご活用いただきたくご案内申し上げます。

■開講日程

10 月 5 日（水）15:30 ～19：30「ベーシック・メディアリレーションズ」
10 月 12 日（水）15:30 ～19：30「ベーシックＰＲプランニング」
10 月 19 日（水）15:30 ～19：30「ベーシック・ドキュメンテーション」
10 月 26 日（水）15:30 ～19：30「ベーシック・プレゼンテーション」

※講座概要、受講料金等は、次ページ参照。

■会　場

富士ソフト アキバプラザ
東京都千代田区神田練塀町３　富士ソフト秋葉原ビル
http://www.fsi.co.jp/seminar/morenote/tokyo/printmap.html

■定　員

各 40 名

■詳細/お申込み

「広報ＰＲアカデミー2015」Ｗｅｂサイト（下記ＵＲＬ）の本講座ページをご参照ください。
http://event.prsj.or.jp/pr-academy-2016

■「広報・PRブラッシュアップ講座」実施概要

ベーシック・ メディアリレーションズ 「メディア対応はこれでOK！～円滑なコミュニケーションのための基本スキル」			
10 月 5 日 （水） 15:30～19:30	テレビ、新聞、雑誌等のメディアの種類やそれぞれの特性、メディア関係者の考え方や対応法などメディアリレーションズに関する基本的な知識とスキルを講義と演習を通じて習得します。ソーシャルメディア等のネット系メディアとマスメディアとの連携についても学びます。	[講 師] 田代 順 氏 （株式会社スペインクラブ 取締役社長）	「申込 締切」 9 月 30 日 （金）

ベーシックPRプランニング 「課題解決につながる戦略的プランニングの進め方～PRプラン作成の基本を学ぶ」			
10 月 12 日 （水） 15:30～19:30	経営目標・事業目標と綿密な現状分析に基づいてPR目標を導き出し、それを達成するための戦略、コミュニケーションプログラムの立案等の一連のプロセスで構成されるPRプランニングの基本的な知識と考え方、まとめ方について講義と演習を通じて習得します。	[講 師] 横田 和明氏/髙野祐樹氏 （株式会社井之上パブリックリレーションズ）	[申込 締切] 10 月 7 日 （金）

ベーシック・ドキュメンテーション 「〝見心地〟よいプレゼン資料の作り方～PowerPoint を効果的に使いこなす」			
10 月 19 日 （水） 15:30～19:30	プレゼンテーションや企画書等、PowerPoint を活用しテキストとイメージを組み合わせて構成する広報・PRツールの作成について、その基本的なスキルを講義と演習を通じて習得します。講座にはノートパソコンをご持参いただき、実際に操作しながら学びます。	[講 師] 秋山太一郎氏 （デプラス株式会社 代表取締役 /Document Designer）	[申込 締切] 10 月 14 日 （金）

ベーシック・ プレゼンテーション 「わかりやすくしっかり伝わるプレゼンテーション～成功するコミュニケーション技法」			
10 月 26 日 （水） 15:30～19:30	顧客への企画提案、経営トップへのプレゼン、記者発表等において求められるプレゼンテーションについて、聞き手にとってわかりやすく効果的伝えるためのポイントや表現法について講義と演習を通じて習得します。	[講 師] 岡本純子氏 （株式会社グローコム 代表）	[申込 締切] 10 月 21 日 （金）

■受講料金（税込、円）

種　　別	ベーシック・メディアリレーションズ／ ベーシック・プランニング／ ベーシック・プレゼンテーション	ベーシック・ドキュメンテーション
日本PR協会会員社員	17,280	17,820
PRプランナー（准・補）	22,680	23,220
一　　般	25,920	26,460

講座アジェンダについては、Webサイト「広報PRアカデミー2016」のそれぞれの講座ページをご参照ください。
http://event.prsj.or.jp/pr-academy-2016

2016 年度「PRアワードグランプリ」
審査体制を一新して 9 月 1 日からエントリー募集を開始！
～審査委員長に㈱博報堂ケトル　嶋　浩一郎氏～

顕　彰　委　員　会

パブリックリレーションズの活動事例について、広く募集し、審査を通じて優秀な活動を表彰・公開し、パブリックリレーションズの質的向上に資するとともに、パブリックリレーションズに対する一層の理解促進を図ることを目的としてスタートした「ＰＲアワードグランプリ」のエントリー募集を９月１日から開始いたしました。

今年度は、これまで応募部門ごとに行われていた審査体制を一新。博報堂ケトル共同ＣＥＯの嶋浩一郎氏を審査委員長とし、企業広報やＰＲ関連会社で高い実績と経験を備えた合計８名の審査員団が、エントリー全作品をグランプリ選出まで一貫して選考に当たります。
まさにＰＲのプロフェッショナルが部門の枠を超えて、ＰＲ業務の最高峰を選出するアワードの実現を目指します。

さらに今回、従来のエントリー部門に加えて「インターナル・コミュニケーション部門」を新設いたしました。一般企業・団体や自治体などが日常的に行っている内部向けのコミュニケーション部門を新設することで、一般企業・団体や自治体からもエントリーしていただきやすい部門構成といたします。

会員の皆様におかれましては、募集要項をご参照いただき奮ってエントリーをお願いいたします。多数のエントリーをお待ちしております。

■「ＰＲアワードグランプリ」募集概要

・募集開始：2016 年 9 月 1 日（木）
・後援　　：経済産業省、日本広報学会、公益社団法人 日本広報協会
・告知　　：協会Ｗｅｂサイト等
・応募作品：（公社）日本パブリックリレーションズ協会の会員社ならびに非会員の企業・団体が実施あるいは参加したコミュニケーション活動（現在も継続中であれば過去の応募作品も可）
・対象期間：最近 1 年間（2015 年 10 月 1 日～2016 年 9 月 30 日）に成果があがった活動、または 2015 年 10 月 1 日以前から実施し、複数年にわたり現在でも継続している活動
・応募部門：
　■コーポレート・コミュニケーション部門
　■マーケティング・コミュニケーション部門
　■ソーシャル・コミュニケーション部門
　■インターナル・コミュニケーション部門
　■研究・開発部門
・募集締切　：2016 年 10 月 31 日（月）17：30 必着
・エントリー方法：件名を「2016 年度ＰＲアワードグランプリエントリーシート」と明記し、エントリーシートファイルとエントリー料の「振込領収書」のコピーのＰＤＦを添付して E-mail でご提出ください。
・エントリーシート送付先：award@prsj.or.jp
・エントリー料：
　・会　員：10,800 円／1 作品（消費税含む／振込手数料別途）
　・非会員：21,600 円／1 作品（消費税含む／振込手数料別途）

・審査方法：
グランプリ候補作選出審査、グランプリ選出審査の 2 つのステップを通じて厳正に審査を行います。

1. グランプリ候補作選出審査
審査委員長のもと、8 名の審査委員で審査団を構成。部門横断で全作品を審査し、グランプリ選出審査に進む作品を発表します。

＜審査委員長＞（敬称略）
・嶋浩一郎（㈱博報堂ケトル　代表取締役社長・共同ＣＥＯ）

＜審査委員＞（氏名 50 音順／敬称略）
・雨宮和弘（クロスメディア・コミュニケーション㈱　代表取締役社長）
・上岡典彦（㈱資生堂　コーポレートコミュニケーション本部　広報部長）
・遠藤　祐（㈱オズマピーアール　取締役 副社長）
・小林右樹（(一社) 法人企業研究会　研究協力員）
・中里　忍（ブルーカレント・ジャパン㈱　バイスプレジデント）
・松本洋司（㈱電通パブリックリレーションズ関西支社　次長）
・吉宮　拓（㈱プラップ ジャパン　施行役員 第 2 コミュニケーションサービス本部 本部長代理）

2. グランプリ選出審査
グランプリ選出審査では、グランプリ候補作選出審査を通過した作品について各エントリー企業・団体からのプレゼンテーションを行います。審査は前述の審査団に加え、特別審査員が加わり、「グランプリ」、「ゴールド」、「シルバー」の各賞を決定します。

＜グランプリ選出審査概要＞
日時：2016 年 12 月 7 日（水）13：30～18：00（予定）
会場：六本木アカデミーヒルズ 49「オーディトリアム」

＜特別審査員＞（敬称略／氏名 50 音順）
・阿久津聡（一橋大学大学院 国際企業戦略研究科 教授）
・大宅映子（ジャーナリスト・評論家・コメンテーター）
・田中里沙（㈱宣伝会議 取締役副社長 兼 編集室長）

・表彰と副賞

「グランプリ」	1 作品（表彰盾と副賞 10 万円を授与）
「ゴールド」	2 作品まで（表彰盾と副賞 5 万円を授与）
「シルバー」	5 作品まで（表彰盾と副賞 3 万円を授与）
「ブロンズ」	7 作品まで（表彰状）

・「ＰＲアワードグランプリ」上位入賞作品を以下で紹介します。
・ＰＲ協会Ｗｅｂサイト
・協会出版物（「PRSJ Yearbook」、「協会ニュース」等）で発表
・協会主催のセミナーなど

なお、詳しい応募内容は、以下の協会ホームページをご参照ください。
http://www.prsj.or.jp/shiraberu/award/entry2016_award

広報PRアカデミー 2016

夏期の「PRプランナー試験対応講座」を終了

「3 次試験対応講座」、「1 次試験対応講座」を 6～8 月に開講

教　育　委　員　会

協会では、ＰＲプランナー資格認定試験の受験者を対象とした夏の「ＰＲプランナー試験対応講座」2 講座を 6 月から 8 月上旬にかけて開講しました。両講座には、昨年を上回る多数の受講者の参加、試験の合格に向けて真剣に学ぶ姿がみられました。

ＰＲプランナー試験の最難関 3 次試験の受験者を対象とする「ＰＲプランナー3 次試験対応講座」は、6 月 8 日から 7 月 12 日にかけて 6 回にわたり「泉ガーデンコンファレンスセンター」(東京都港区六本木 1 丁目)にて開講されました。

講師は、「ニュースリリースの作成」を（株）電通パブリックリレーションズの青田浩治氏、「広報・ＰＲ計画の立案作成（マーケティング課題)」（株）オズマピーアールの野村康史郎氏、「広報・ＰＲ計画の立案作成（コーポレート課題)」は風間眞一広報事務所の風間眞一氏のベテラン講師がそれぞれを担当、会場受講とＷｅｂ受講をあわせて 56 名が 3 次試験を模した課題に取り組みました。

3 次試験対応講座

また、7 月 13 日より 4 回にわたり「泉ガーデンコンファレンスセンター」にて開講されたＰＲプランナーの登竜門「ＰＲプランナー1 次試験対応講座」では、1 次試験の突破をめざす新進気鋭の 61 名が受講しています。講師は㈱スペインクラブの田代　順氏、㈱エイレックスの畑山　純氏がそれぞれ 2 回ずつ担当、実務における経験談も交えながら広報・ＰＲの基礎を解説しました。

1 次試験対応講座

7 月 23 日には、「第 18 回　ＰＲプランナー3 次試験」が東京と大阪の会場にて、また 8 月 21 日には、「第 19 回　ＰＲプランナー1 次試験」が東京、大阪、名古屋、札幌において実施されました。今回の試験にはそれぞれの講座受講者がＰＲプランナー資格の取得をめざし取り組んでおり、受験した多くの受講者が合格したものと期待されます。

なお、次回の 3 次試験対応講座は本年 12 月、また 1 次試験対応講座は来年 2 月に開講の予定です。講座詳細ならびに受講受付は、開講の約 1 か月前より当協会のＷｅｂサイトにて行います。

広報PRアカデミー 2016

「緊急記者会見トレーニング」を７月７日に開講

現職弁護士の指導により模擬記者会見トレーニングを実施

教　育　委　員　会

７月７日、当協会では「広報・ＰＲプラクティカル・トレーニング 」第１回講座として、「緊急記者会見トレーニング～緊急記者会見とクライシス・コミュニケーション」を、六本木アカデミーヒルズを会場として開講しました。本講座には、協会の内外より 44 名の広報・ＰＲパーソンが参加、危機管理広報に関する広報・ＰＲ関係者の関心の高さをうかがわせています。

今回開講した「緊急記者会見トレーニング～緊急記者会見とクライシス・コミュニケーション」では、講師に企業等の危機管理対応を実際に手がけている甲斐淑浩弁護士（アンダーソン・毛利・友常 法律事務所）をお招きし、危機的事態に対処するための心得や対応のポイントに関しての講義と、緊急記者会見を想定した模擬記者会見トレーニングを実施しました。

講義は「緊急記者会見とクライシス・コミュニケーション」をテーマとして、危機管理とクライシス・コミュニケーション、広報担当者の対応の基本と法的視点、緊急記者会見の計画と実施のポイント、さらに最近の事例等について解説が行われました。その後、演習として顧客情報の流出という緊急事態への対処を課題として、グループに分かれ模擬記者会見を実施しました。会見では、記者役よりの回答に窮する質問に立ち往生する経営者役の姿もみられ、緊急時におけるメディア対応の難しさを参加者全員が体験しました。

また、現職弁護士である講師からは警察捜査との関連、法的責任など法的な視点からの見解も解説され、広報的な視点も交えたいっそう広い視点で考えることの重要性に関し受講者の理解が深められました。

「広報・ＰＲプラクティカル・トレーニング」は、重要度は高いがあまり学ぶ機会の得られないスキル、最近注目を集めている広報・ＰＲの技法をテーマとしてとり上げ、経験と実績ある講師の指導を通じてそのポイントの習得をめざす研修講座です。今回、その第１回として「クライシス・コミュニケーション」をテーマとして取り上げました。

教育委員会ではテーマ、内容についてさらに検討を深め、第２回講座を来年３月頃に開講する予定です。詳細については決まり次第、広報ＰＲアカデミーのＷｅｂサイトでお知らせします。

第 18 回ＰＲプランナー資格検定試験

3 次試験結果発表　合格者は 86 名
合格率は 46.5%とふるわず

資　格　委　員　会

7 月 23 日（土）に富士通ラーニングメディア品川ラーニングセンター（東京会場）、富士通ラーニングメディア関西ラーニングセンター（大阪会場）において第 18 回ＰＲプランナー資格検定 3 次試験が行われ、196 名の受験申込者のうち 185 名（出席率 94.4%）が受験されました。
ご協力いただきました関係者および関係各位の皆様、大変ありがとうございました。

今回の 3 次試験におけるニュースリリース課題は、過去に爆発事故を起こした化学原材料製造工場が、事故原因の調査と再発防止策に関する報告書が関係当局により承認されたことを受け、同工場の操業を再開するという内容でした。

東京会場:
富士通ラーニングメディア品川ラーニングセンター

また、広報・ＰＲ計画の立案作成におけるコーポレート課題は、経営危機に陥った総合家電メーカーが、産業再建機構（再建ファンド）の出資を受けることとなり、広報担当者として、自社の企業イメージを立て直し、企業価値の向上をアピールするための、広報・ＰＲの施策を策定するものでした。

マーケティング課題では、官民学共同事業で開発した家庭用簡易果汁絞り器（キッチン家電）の発売前、発売後、さらに、果汁絞り器で使用する果実が優位に立てる戦略を含んだマーケティング広報・ＰＲの施策を策定するものでした。

厳正な判定の結果、86 名が合格（合格率 46.5%）となり、8 月 19 日に発表となりました。
合格された方は、9 月に実施されます「2016 年度前期 第 18 回ＰＲプランナー」の書類審査を経た後、新たにＰＲプランナーとして認定となります。仮に、全員が認定されれば、ＰＲプランナー登録者数は 2,105 名となります。

皆様には、あらためて感謝の意を捧げますとともに、今後とも一層のご厚誼を賜りますようお願い申し上げます。

受験者／合格者プロフィール

＜第 18 回 3 次試験　業種別／年代別合格率＞

		ＰＲ業/ＰＲ関連業	一般企業(広報ＰＲ関連)	一般企業(その他)	各種団体	教育機関	自治体	その他	全体
男性	受験者	38 名	49 名	7 名	0 名	2 名	2 名	2 名	100 名
	合格者	11 名	22 名	3 名		1 名	0 名	2 名	39 名
女性	受験者	16 名	56 名	8 名	2 名	1 名	0 名	2 名	85 名
	合格者	9 名	31 名	5 名	1 名	0 名		1 名	47 名
全体	受験者(全体比)	54 名(29.2%)	105 名(56.8%)	15 名(8.1%)	2 名(1.1%)	3 名(1.6%)	2 名(1.1%)	4 名(2.2%)	185 名(100.0%)
	合格者(全体比)	20 名(23.3%)	53 名(61.6%)	8 名(9.3%)	1 名(1.2%)	1 名(1.2%)	0 名(0.0%)	3 名(3.5%)	86 名(100.0%)
	合格率	**37.0%**	**50.5%**	**53.3%**	**50.0%**	**33.3%**	**0.0%**	**75.0%**	**46.5%**

		20 代	30 代	40 代以上	全体
男性	受験者	17 名	46 名	37 名	100 名
	合格者	7 名	18 名	14 名	39 名
女性	受験者	19 名	33 名	33 名	85 名
	合格者	12 名	17 名	18 名	47 名
全体	受験者(全体比)	36 名(19.5%)	79 名(42.7%)	70 名(37.8%)	185 名(100.0%)
	合格者(全体比)	19 名(22.1%)	35 名(40.7%)	32 名(37.2%)	86 名(100.0%)
	合格率	**52.8%**	**44.3%**	**45.7%**	**46.5%**

受験者	合格者	合格率
185 名	86 名	46.5%

※第 1 回～18 回まで累計は、資格制度ホームページより、資格認定制度について＞過去の合格率（3 次試験）（http://pr-shikaku.prsj.or.jp/about/pass_3rd_exam）をご参照ください。

第 1 回～第 18 回 3 次試験 合格率の推移

実施回(試験日)	受験者数	合格者数	合格率
第1回（2008 年 1 月 19 日）	297 名	145 名	48.8%
第2回（2008 年 7 月 26 日）	232 名	182 名	78.4%
第3回（2009 年 1 月 24 日）	156 名	128 名	82.1%
第4回（2009 年 7 月 25 日）	193 名	146 名	75.6%
第5回（2010 年 1 月 23 日）	193 名	148 名	76.7%
第6回（2010 年 7 月 24 日）	199 名	133 名	66.8%
第7回（2011 年 1 月 22 日）	174 名	107 名	61.5%
第8回（2011 年 7 月 23 日）	185 名	120 名	64.9%
第9回（2012 年 1 月 21 日）	168 名	96 名	57.1%
第 10 回（2012 年 7 月 21 日）	176 名	113 名	64.2%
第 11 回（2013 年 1 月 26 日）	160 名	118 名	73.8%
第 12 回（2013 年 7 月 27 日）	173 名	110 名	63.6%
第 13 回（2014 年 1 月 25 日）	171 名	132 名	77.2%
第 14 回（2014 年 7 月 26 日）	148 名	109 名	73.6%
第 15 回（2015 年 1 月 24 日）	128 名	84 名	65.6%
第 16 回（2015 年 7 月 25 日）	138 名	89 名	64.5%
第 17 回（2016 年 1 月 23 日）	154 名	93 名	60.4%
第 18 回（2016 年 7 月 23 日）	185 名	86 名	46.5%
累計	3,230 名	2,139 名	66.2%

第 19 回ＰＲプランナー資格検定試験

1 次試験を 8 月 21 日(日)東京・大阪・名古屋・札幌で実施
～過去 2 番目の受験者数となる 516 名が挑戦～

資　格　委　員　会

8 月 21 日（日）に（東京：東京富士大学、大阪：毎日インテシオ、名古屋：ＡＰ名古屋、札幌：北海道建設会館）で行われた第 19 回ＰＲプランナー資格認定検定試験 1 次試験では、552 名の受験申込があり、そのうち 516 名（出席率 93.5%）が受験、合格者は 414 名（合格率 80.2%）となりました。

2007 年より実施しているＰＲプランナー資格認定検定試験では、今回の第 19 回 1 次試験までの累計で、受験申込者は 9,014 名、受験者は 8,275 名、1 次試験合格者は6,175名、平均合格率は74.6%となりました。

ご協力いただきました関係者の皆様、大変ありがとうございました。

なお、今回の受験者はおよび合格者の受験者プロフィールは次の通りです。

東京富士大学 5号館

＜第 19 回 1 次試験　業種別／年代別合格率＞

		ＰＲ業/ＰＲ関連業	一般企業(広報ＰＲ関連)	一般企業(その他)	各種団体	教育機関	自治体	学生	その他	全体
男性	受験者	59 名	65 名	20 名	9 名	4 名	7 名	19 名	19 名	202 名
	合格者	51 名	61 名	17 名	6 名	3 名	7 名	12 名	14 名	171 名
女性	受験者	53 名	130 名	32 名	7 名	3 名	4 名	67 名	18 名	314 名
	合格者	44 名	116 名	28 名	6 名	3 名	1 名	30 名	15 名	243 名
全体	受験者	112 名	195 名	52 名	16 名	7 名	11 名	86 名	37 名	516 名
	(全体比)	(21.7%)	(37.8%)	(10.1%)	(3.1%)	(1.4%)	(2.1%)	(16.7%)	(7.2%)	(100.0%)
	合格者	95 名	177 名	45 名	12 名	6 名	8 名	42 名	29 名	414 名
	(全体比)	(22.9%)	(42.8%)	(10.9%)	(2.9%)	(1.4%)	(1.9%)	(10.1%)	(7.0%)	(100.0%)
	合格率	**84.8%**	**90.8%**	**86.5%**	**75.0%**	**85.7%**	**72.7%**	**48.8%**	**78.4%**	**80.2%**

		20 代	30 代	40 代以上	全体
男性	受験者	70 名	65 名	67 名	202 名
	合格者	55 名	61 名	55 名	171 名
女性	受験者	164 名	103 名	47 名	314 名
	合格者	111 名	91 名	41 名	243 名
全体	受験者	234 名	168 名	114 名	516 名
	(全体比)	(45.3%)	(32.6%)	(22.1%)	(100.0%)
	合格者	166 名	152 名	96 名	414 名
	(全体比)	(40.1%)	(36.7%)	(23.2%)	(100.0%)
	合格率	**70.9%**	**90.5%**	**84.2%**	**80.2%**

受験者	合格者	合格率
516 名	414 名	80.2%

※第 1 回～19 回の累計については、資格制度Ｗｅｂサイトより、
資格認定制度について＞過去の合格率（1 次試験）
（http://pr-shikaku.prsj.or.jp/about/pass_1st_exam）をご参照ください。

会 員 限 定

異文化勉強会
在東京タイ王国大使館 訪問
7 月 15 日(金) 11:00～13:30

国際・交流委員会

国際・交流委員会では、年 2 回程、駐日大使館を訪問し、各国の経済や文化を学ぶとともに、会員間の交流を図っている。今回は在東京タイ王国大使館を訪れ、41 名が参加した。

タイ王国大使館は、ＪＲ目黒駅から徒歩 10 分ほどだ。目黒通りを曲がり、細くくねった道を下ったところにある。門を入ると 2013 年に建てられた真新しくモダンな事務所、ホールの建物があり、左手には大きなゴシック式の洋館がある。洋館は 1932 年に和歌山出身の実業家、濱口吉右衛門氏が自邸として建てた。戦況が悪化する 1943 年、軍による接収を免れるため、タイ王国に売却、以来、大使公邸として使用されている。

.

第 37 回「ＰＲスキル研究会」開催報告
「地方創生時代における自治体PRについて」

ＰＲ業部会

2016 年 6 月 23 日に行われた第 37 回ＰＲスキル研究会では、㈱オズマピーアール 営業開発部 地域ブランディングチーム 部長 名和佳夫 氏を講師にお迎えし、ＰＲ業部会会員 37 名の参加者に向け「地方創生時代における自治体ＰＲについて」をテーマにお話いただいた。

会 員 限 定

第175回定例研究会

スクープ街道を驀進する『週刊文春』の取材と編集
～隠された真実に切り込む週刊誌の調査報道～

講師：株式会社文芸春秋
「週刊文春」編集長
新谷　学 氏

第 175 回は 6 月 24 日（金）日本外国特派員協会（ＦＣＣＪ）「メディアルーム」で開催しました。

講師は㈱文藝春秋「週刊文春」編集長の新谷 学氏。テーマは「スクープ街道を驀進する「週刊文春」の取材と編集 ～隠された真実に切り込む週刊誌の調査報道～」。編集長として現場記者に託した取材方針、調査報道の考え方、デジタル化の取り組みなどについて講演いただきました。

参加者は 81 名でした。

志高き仲間とベクトルを同じくすることの素晴らしさ

トライベック・ストラテジー株式会社
水沢　剛

皆さまはじめまして。Ｗｅｂマーケティング支援事業を展開するトライベック・ストラテジー株式会社で広報・ＰＲを担当しております、水沢 剛（みずさわ たけし）と申します。今回ご指名をいただきましたので、私がＰＲプランナー資格を取得した経緯と、ＰＲプランナー部会の活動について、僭越ながらご紹介させていただければと思います。

私がＰＲ業務に本格的に携わるようになったキッカケは、ほんの数年前のこと。新社長が「第二創業期」を掲げ、積極的な成長戦略を描き動き始めていた設立 14 年目の当社にとって、なくてはならないある機能が欠けていることに改めて気づきました――そう、当社にはＰＲ部門や、専任のＰＲ担当者が存在しなかったのです。

しかし、描いたビジョンどおりの成長を当社が遂げるためにはＰＲ部門が必要不可欠であると考えた私は、社長にその必要性を何度も直談判し、その担当者として立候補しました。気まぐれや思いつきではなく「本気」であることを行動で示すためにＰＲプランナー資格試験にも挑戦しました。

幸いなことに、当社の社長はもともとＰＲの重要性について理解があったこともあり、その半年後にはＰＲ部門が新設され、担当者として私が（兼務ですが）就任することになりました。これで資格試験に受からないと格好がつかないところでしたが――こちらもなんとか無事に合格することができました。

こうして、晴れてＰＲプランナーとなった私ですが、この 4 月からは「ＰＲプランナー部会」の幹事としても活動しています。

ＰＲプランナー部会は 2015 年度に協会内に新設された組織で、ＰＲプランナー資格を有する協会会員有志によって運営されています。ＰＲプランナー資格制度の認知向上や資格取得メリット向上、有資格者への学習機会提供、協会活動方針に対する有資格者の意思反映などを目的として活動しています。

当然のことながら幹事として集まったメンバーは皆ＰＲのスペシャリストであり、ＰＲプランナー資格の発展を心から願う、志の高い方々ばかりです。そのような皆さまと同じベクトルに向かい、力を合わせてひとつのモノを創りあげていく充実感は、何ものにも代え難い本当に素晴らしいことと感じます。

そんなＰＲプランナー部会において、私はＰＲプランナー有資格者の独自教育研鑽活動として「ＰＲプランナーフォーラム」を企画・運営する「フォーラム分科会」の一員として精力的に活動しています。

2016 年度はＰＲプランナーの皆さまからのニーズが特に高かった「Ｗｅｂ広報」を年間テーマとして設定し、東京で 3 回、大阪で 2 回の開催を計画しています。7 月には東京で「広報担当者のための『Ｗｅｂで “伝わる” 広報・ＰＲ 7 つのポイント』」と題して講演会を開催、約 60 名の方にご参加いただきました。参加の皆さまの意欲もとても高く、質疑応答も時間いっぱいまで活発に交わされました。

なお、同内容の講演会は大阪でも開催予定ですので、お近くの方はぜひ参加をご検討いただければと思います。詳しくは協会からの案内をご確認ください。

元々、自社ＰＲを担当することへの意思の固さや本気度を会社にアピールするために取得を試みたＰＲプランナー資格ですが、ＰＲプランナーの皆さまとの交流からＰＲプランナー部会への参画、ＰＲプランナーフォーラムの企画・運営など、資格取得からわずか１年の間に自分自身を取り巻く環境や意識が大きく変化しました。これからも志高き仲間とともに学び、研鑽しながら、よりよいＰＲプランナー資格のあり方について考え、取り組んでいきたいと思います。

＜コラム関西の風＞

インバウンドの需要創出

サントリーホールディングス株式会社
広報部部長
西島憲治

外国人観光客による「インバウンド」「爆買い」は、関西でもすっかり定着した感がある。訪日客数やその消費額の伸び率は鈍化してきたものの、まだまだ増加傾向にある。やはり飲食や買い物の聖地「ミナミ」や、関西の観光地の定番である「大阪城」「清水寺」「東大寺」、それに「ユニバーサル・スタジオ・ジャパン」の人気は不動のようだが、その人気スポットとは規模感では全く比較にならないが、訪日客が増加している意外な施設をご紹介したい。

緑の中にある山崎蒸溜所

自社の宣伝になって恐縮だが、国内では日本の「ウイスキー発祥の地」として知られている山崎蒸溜所（京都）が、今年になって見学者の訪日客比率が 2 割を超えている。4～5 年くらい前から訪日客の見学が徐々に増え始めていたが、ここ 1～2 年は倍増している。これまたインバウンドの影響と思われるが、意外にもアジアの団体客はほとんどなく、欧米の訪日客が、個人または数名の小グループで直接見学を申込んでくるケースが多い。海外の見学者で 1 番多いのはアメリカ人で、2 番目に香港、次いでオーストラリア人が続く。

また、見学後にアンケートを実施しているが、その集計によれば外国人見学者の工場見学に対する満足度は実に「99%」という驚異的な数字になっている。
感想としても、「it's perfect already.Better than the scottish ones!」とか、「Everything was Ichiban！perfect！」といった嬉しい声もたくさんいただいている。

蒸溜設備

ウイスキー（樽）が眠る貯蔵所

欧米を中心にジャパニーズウイスキーの人気が高まっていることに加え、大阪や京都から近いという立地も影響していると思われるが、どうもそれだけではなさそうだ。工場や製造工程をご案内する際の丁寧でフレンドリーな対応や、比較的小グループでのご案内が日本人流の「おもてなし」として好評を博しており、それがＳＮＳ等で世界に拡散されているのも人気の一因のようだ。

今後も訪日客はアジアが中心になることは間違いないと思うが、少し目線を変えたり、ひと工夫加えることで、新たなインバウンドを誘致できる可能性はまだまだ残されていると思う。「インバウンド」「爆買い」が一過性のものにならないよう、新たな関西の魅力を見つけ出し、それを海外に発信できれば、「インバウンド」を次のステージに引き上げられるチャンスがすぐそこにあるように思う。

PRSJ in Media

● 7月1日（金）　『月刊広報会議』 8月号

『月刊広報会議』8月号における当協会の連載コラムに、当協会が新たに定めた新綱領、パブリックリレーションズの定義などについて掲載されました。

コラムでは、新綱領においてパブリックリレーションズは、「社会との間で健全な価値観を形成し、継続的に信頼関係を築くための活動」として定義され、さらに「新たな社会的価値創出」を行うという将来展望を加えたことが紹介されています。
また、ＰＲプランナー資格制度の拡充をはかること、ＰＲアワードグランプリの応募数の増加をめざし審査プロセスの透明性を高めていくことなど、今年度における協会の重点施策のポイントが掲載されました。

● 8月1日（月）　『月刊広報会議』 9月号

『月刊広報会議』9月号における当協会の連載コラムに、フランス・カンヌで開催された今年度の「カンヌライオンズ　国際クリエイティビティ・フェスティバル」に参加した日本人関係者に関する報告が掲載されました。

コラムでは、今回のイベントに参加した日本人関係者が30人以上と過去最多になったこと、ＰＲカテゴリーにおける日本からの受賞が2チームに留まったことなどが紹介されています。
また、日本人シェフが活躍するニースのレストランで関係者が交流し、カンヌライオンズについて熱く語り合う意見交換の様子などが写真入りで掲載されました。

編集担当より

会員のみなさんの情報をお寄せください！！

本誌では会員の動向・消息や、会員から会員へのお知らせなどを積極的に掲載いたします。ビジネスに直結する情報に限らず、会員交流に関するものでも結構ですので是非ご一報ください。

日本広報学会より以下のとおり「第 22 回研究発表全国大会」開催のご案内をいただきましたので、会員の皆さまにお知らせいたします。

『日本広報学会　第 22 回研究発表全国大会』開催のご案内

日本広報学会は、「第 22 回研究発表全国大会」を 10 月 29 日（土）30 日（日）の日程で、北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院（札幌市北区北 17 条西 8 丁目）にて開催いたします。

今年の大会では統一論題として「新時代の国際広報」を掲げ、二つのシンポジウムを開催するとともに、北海道視点を取り入れたプレとポストの二つのシンポジウムも併せて企画しております。また、広報・コミュニケーションに関連する広い視点からの研究成果の発表や、若手研究者育成を兼ねたポスター形式の発表等、多彩なプログラムが用意されております。

※　主な内容は次の通りです。
・統一シンポジウム「日本の広報：その普遍性と特殊性」
・記念シンポジウム「地方からのデスティネーションＰＲ」
・ポスト・カンファレンス・シンポジウム「北海道ＣＳＲの現状と課題」
・プレ・カンファレンス・シポジウム「地方創生と国際化」

※プログラムの詳細、参加申込方法、参加申込書などは以下のＵＲＬをご参照ください。
日本広報学会研究発表全国大会告知
http://prsj.or.jp/wp-content/uploads/2016/08/jsccs.doc

※この件に関するお問合せ
日本広報学会　事務局
〒101-0064東京都千代田区猿楽町 2-2-7　第二浦野ビル 402
Tel：03-5283-1104　Fax：03-5283-1123
e-mail：jsccsty@gamma.ocn.ne.jp

編集担当より

本誌の内容に関するご意見・ご希望をお寄せください。
中身の濃い会員誌に育てていきたいと思いますので、
よろしくお願い致します。

広報委員会
Ｅメール　mail@prsj.or.jp
ＦＡＸ　03－5413-2147

※　禁転載